



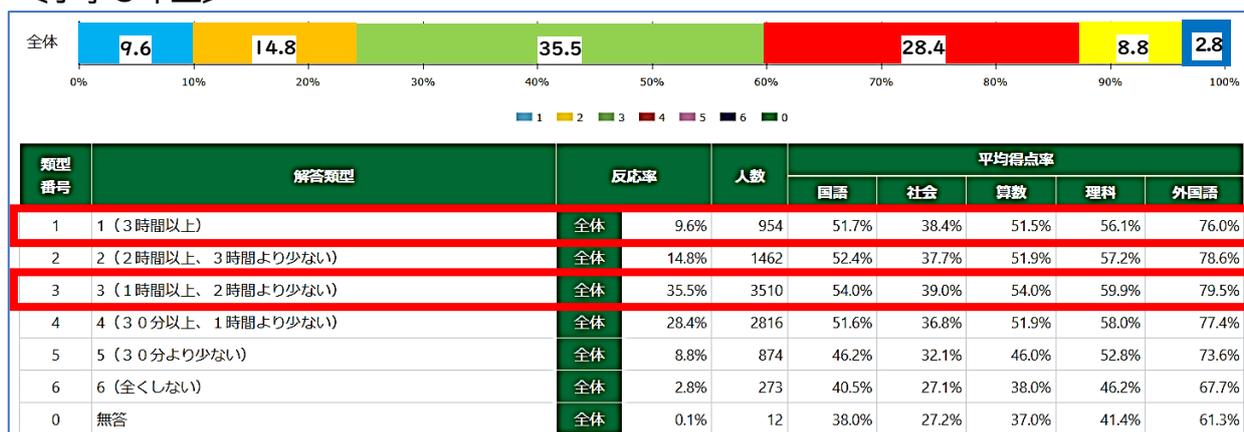
愛媛県学力診断調査の結果分析 ～教科調査×児童生徒質問調査～

愛媛県学力診断調査について、教科調査と児童生徒質問調査とをクロス集計した結果の一部を紹介します。教育データは、様々な見方ができ、一つの見方だけが正しいとは限りません。そのため、子供の実態や日々の教育活動と照らし合わせながら考えることが大切です。こうした省察を通じて、データの捉え方をより客観性のあるものにしていくことができます。子供たちの姿や日々の教育現場をイメージしながら、ぜひデータを御確認ください。

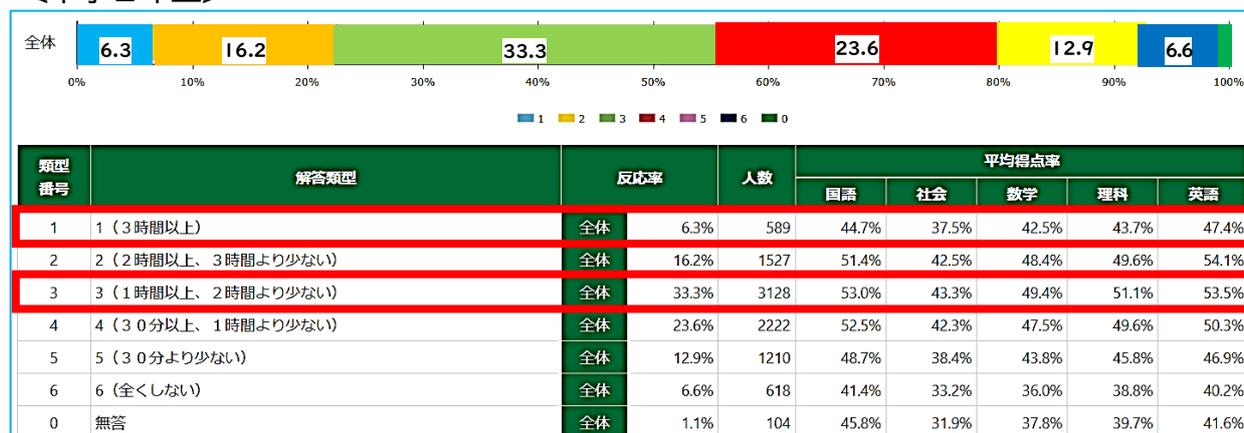
家庭学習における実態把握のすすめ！？

Q 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

〔小学5年生〕



〔中学2年生〕

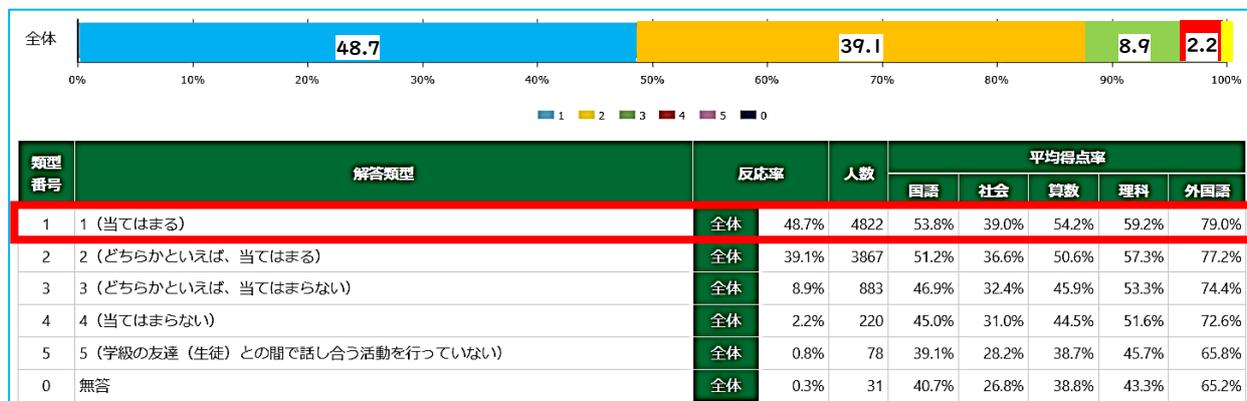


各教科の平均得点率は、学校の授業時間以外の学習時間が「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童生徒が最も高くなっています。一般的に学習時間が長いほど、平均得点率は高くなると考えがちですが、そうではない結果が出たのであれば、「どのような家庭学習であったのか」という視点で、学習の仕方や内容、課題の量等を組織的に検討していくのも大切です。まずは、家庭学習の実態把握から始めてはいかががでしょうか。

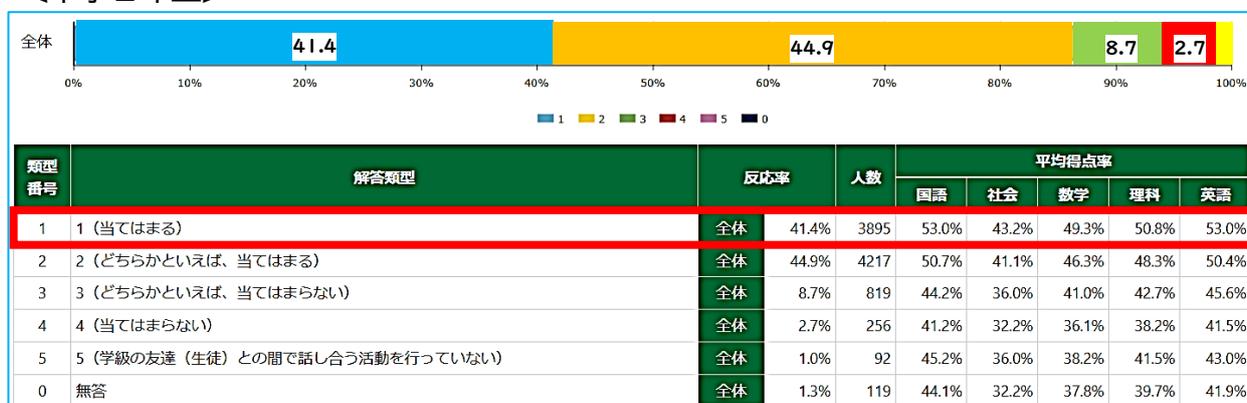
「言語活動の充実」が学力向上の鍵！

Q 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

〔小学5年生〕



〔中学2年生〕



各教科の平均得点率は、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童生徒が最も高くなっています。日々の授業において、言語活動の充実が学力向上の鍵であり、考えや思いの言語化を意識した丁寧な学習指導を図る必要があります。

その他のクロス集計結果は、各学校においてE I L S（児童・生徒質問調査）から確認することができます。ぜひ、自校と県全体の結果を確認し、今年度の学習指導や研修計画の省察に活用してください。

令和6年度エキスパート・ティーチャー授業研究会を通して

今年度、県内各地域において、授業改善の活性化を目的に、5教科小・中学校合わせて10校を会場に授業研究会を行いました。各会場において、様々な視点から意見交換が行われ充実した研究会となりました。事後アンケートから参加者の声の一部を集約して掲載します。

- ・問題解決的な学習のポイント、主体的な学びを促す評価など示唆にあふれる実践が勉強になった。
- ・ヒントカードの提示やデータの集計、活動の振り返りなど、様々なICTの活用方法が分かった。
- ・これだけの研究会であれば、若手の先生方を含め、もっとたくさんの先生方が参加すればよかった。

事後アンケートでは、高評価の意見が多くありました。子供の学力を向上させるためには、子供が主体的に考え発言しやすい授業づくりや、ICTを活用した学びを工夫するなど、教員一人一人が授業を見直し、継続的に改善することが不可欠です。これからも理論と実践を往還しながら、子供たちが分かる楽しさを味わえる授業の実現に努めていきましょう。